

(国)469号舗装補修工事契約後VE提案について

(社)静岡県土木施工管理技士会
小林建設株式会社
大竹 正吾

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：平成22年度（国）469号線
舗装補修道路維持工事
- (2) 発注者：静岡県沼津土木事務所
- (3) 工事場所：静岡県 裾野市
- (4) 工期：平成21年10月1日～
平成22年1月20日

本工事は平成21年度、静岡県発注の（国）469号十里木地内を560mにわたり深さ1.1mを路床から再構築する工事であった。10月発注工事であり1月の降雪期前までに工事を完成させる必要があったが、当初施工日数を計画した段階では実質40日間の施工日数が必要とされた。

しかし12月には工事抑制期間などがあり、可能な工事日数は48日間と制約され、天候など考慮すると出来る限り工期短縮が必要であった。

この課題に対してジオテキスタイル工法を採用、それにより掘削土量、残土処分量が低減され1日当たりの施工量が増加、10日間程度の工期短縮ができ、余裕をもって完成する事ができた。通常工事では工事金額の減額変更となるが、VE対象工事であった為工事契約後VE提案をしたことにより提案による減額された金額の50%をVE管理費として会社に残す事ができた。

2. 現場における問題点

- (1) 道路幅員が狭いため施工中は大型通行

止め作業となるが、迂回路が無く可能な限りの工期の短縮が必要だった。

- (2) 道路占用物件を確認したところ水道管、ガス、NTT、東電がそれぞれ確認され土被りの最低深さは1.15mであった。この為現設計舗装断面の1.1mでは掘削時、埋戻し転圧時に埋設管の損傷が考えられた。(図-1)
- (3) 路床入替工は夜間全面通行止め、昼間解放という条件であった為、一日当たりの施工量が限定されていた。

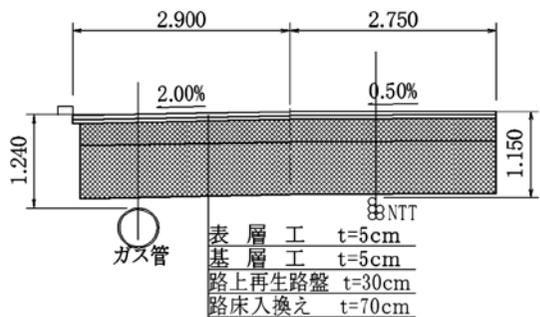


図-1

3. 工夫・改善点 と 適用結果

- 1) 問題点の解決方法として、路床入換厚を可能な限り薄くし、日当たり施工量を増やす工法を検討する必要があった。

参考文献（舗装技術の質疑応答第7巻（上）P113）や協力業者との検討の結果、軟弱路床対策工法であるジオテキスタイル工法を採用することにより、掘削深さが20cm低減され、埋設物からの被りが25cm以上確保できることが分かった。

